

鉄拐(てっかい)



魂を遊離させることができ、片足が不自由で鉄の杖を突いた姿

蝦蟇(がま)



3本足のヒキガエルを従えた妖術使い



竹林の七賢人

新しい思想を生んだ貴族文化を代表する人々として、後世に大きな影響を与えた七人
七人が同時に活動したわけではない



院中八仙

杜甫の七言古詩「飲中八仙歌」に詠まれた中唐初めの八人の酒豪



京都府立博物館

虎溪三笑

ある物事に熱中するあまり、他のことをすべて忘れてしまうことのとえ
慧遠法師が陶淵明、陸修静と話に
夢中になって、決して渡らないと誓っ
た溪谷を渡ってしまい、三人で大笑
いした故事



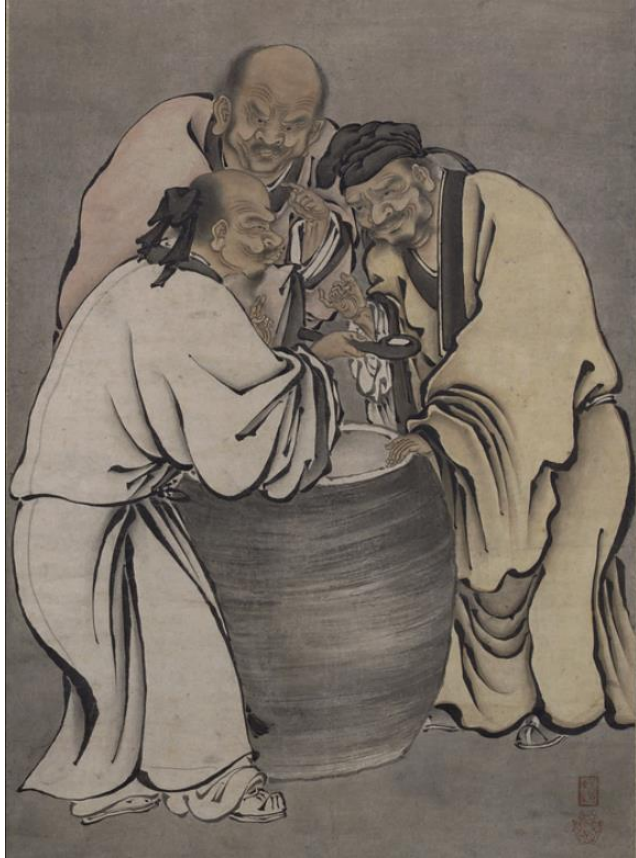
ボストン美術館

商山四皓



乱世を避けて、商山に隠遁した四人の老人
「四皓」はあごひげと眉が白い四人の老人

三酸図



道教の黄庭堅、儒教の蘇東坡が金山寺の仏印禪師をたずねたとき、桃花酸(とうかさん)という酢をなめ、三人とも眉をひそめたという故事
3つの教え(道教、儒教、仏教)のどの立場に立っても、酸っぱいものは酸っぱい、真理はただ一つであるという意味

見立三酸図



武家・遊女・商家と、身分の違う「小町=美人」3人をモデル

四睡



中国・唐時代の禅僧である豊干(ぶかん)禅師、その弟子である寒山(かんざん)・拾得(じつとく)、そして虎の、合計4者が寄り添って眠っている様子
禅の悟りや異類和合(生きとし生けるものが分け隔てなく調和すること)の境地を示すとされ、特に3人の人物と虎がひとつの円を描くように配置される構図

見立四睡



五百羅漢

釈迦の入滅後、經典を編纂するために集まった500人の仏弟子

十六羅漢

釈迦の命を受け、仏法を護持し衆生を導く役割を担った特別な存在

賓頭盧尊者(びんずるそんじゃ)

十六羅漢の筆頭

日本で「なで仏」や「なでぼとけ」として親しまれており、自分の体の患っているところと同じ場所をこの尊者の像で撫でると、病氣平癒や治癒のご利益があると信仰



宇佐市 東光寺

おびんずるさま



善光寺



東福寺



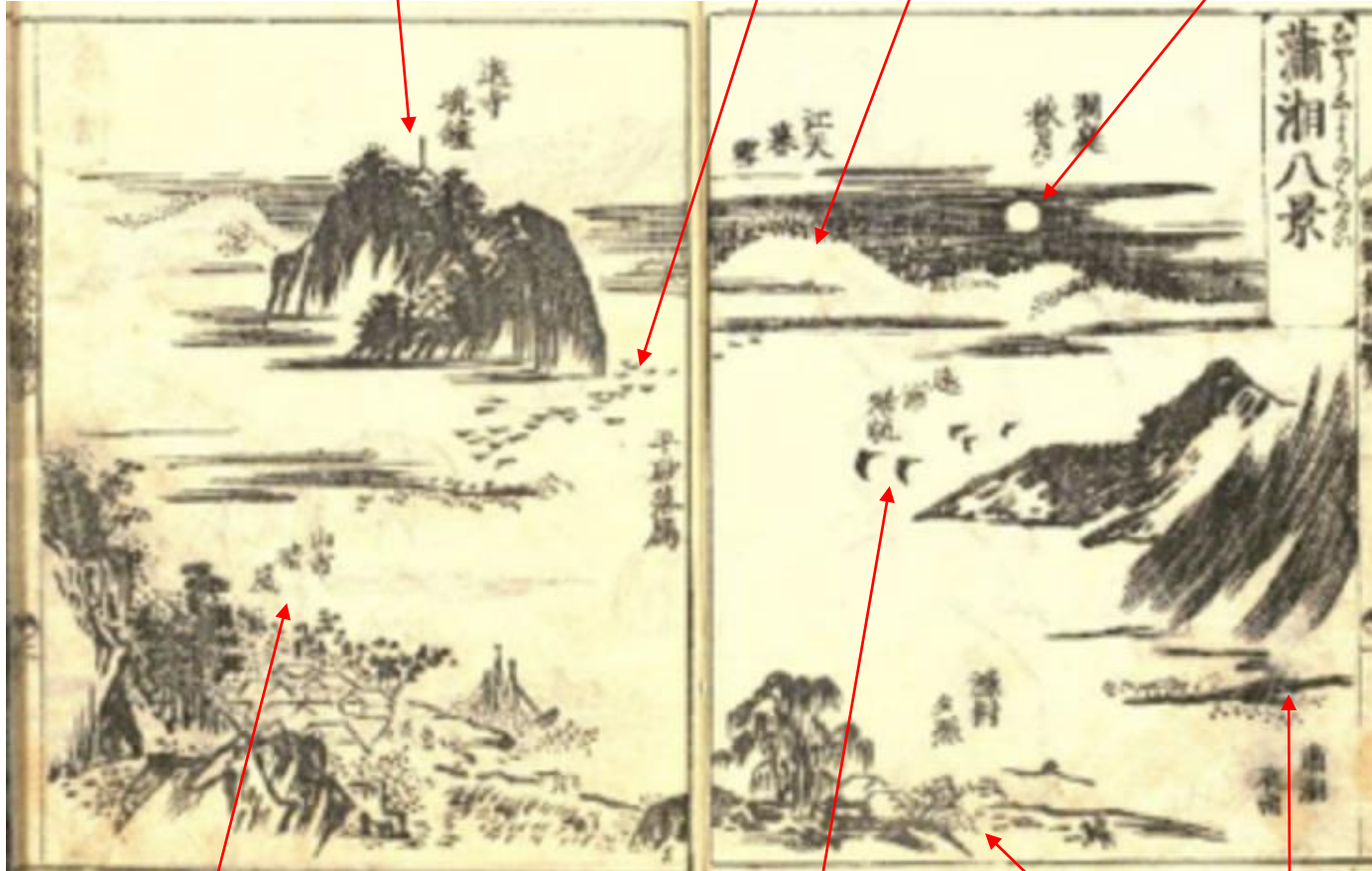
村上 隆

瀟湘八景

しょうしょう

瀟湘は、古より風光明媚な水郷地帯、かつては楚の中心地として栄え、伝説や神話に彩られた土地

遠くに寺院
小さく見える舟
雪
湖の上の月



霞

雁の群れ

漁村

雨



藤田美術館



横山大観